

WR-DA7 バージョン 1.10 の変更項目

1. オートメーション拡張ソフト (M.A.X.) 対応

オートメーション拡張ソフトをお使い頂くためには、DA7 本体に V1.10 以上のプログラムが搭載されている必要があります。

2. MIDI リモート通信の双方向化

これまでのバージョンでは、MIDI リモート機能は MIDI メッセージを送信するだけのものでしたが、V1.10 では、MIDI メッセージの受信によって DA7 のフェーダや LED が動作します。操作子 (フェーダや LED キー) に MIDI リモート機能でコントロールチェンジメッセージを割り付けた場合、そのメッセージを受信すると CUSTOM/MIDI レイヤの該当する操作子が動作します。

3. サラウンドの JOG&FADER モードとパターンモードでのオートメーション記録操作の改善

オートメーションが ENABLE の状態でサラウンドを ENABLE にし、JOG&FADER モードまたはパターンモードのにすると、サラウンドの音の定位点を示すポインタが 2 つ現れます。オートメーションの再生時には、黒のポインタが再生されているデータの定位点を示し、白のポインタが操作によるポインタの動きを示します。オートメーションの記録時には、黒のポインタが操作による定位点の動きを示し、この動きが記録されます。このとき白のポインタは、前回記録されていた定位点の動きを示します。何れの場合も、実際の音の定位点は黒のポインタの示す動きに従って動きます。この機能により、サラウンドの動きをオートメーションに記録する際の、パンチンおよびパンチアウトの操作が容易になります。

4. サラウンドモニタ機能の改善

・サラウンドモニタが ON の状態で、SOLO チャンネルを選択すると、サラウンドモニタで使用していたモニタ A 以外のスピーカ出力が止まります。SOLO モードを解除すると、もとのサラウンドモニタ状態に戻ります。

・サラウンドモニタが ON の状態でサラウンド設定画面が表示されているとき、パネル面の AUX 操作部にある LEVEL ON/OFF ノブを操作して、サラウンドモニタのマスターレベルの調製を行なうことができます。

5. 画面表示キーとテンキーの操作による画面の呼出し機能

画面表示キーを押した直後にテンキー部の数字キーを押すことにより、以下に示すように画面を呼び出すことができます。

| 画面表示キー | 数字 | 画面グループ | 表示される画面 |
|--------------|-----|----------|------------------|
| [UTILITY] | [1] | ユーティリティ | オシレータ設定 / バッテリー点 |
| [UTILITY] | [2] | ユーティリティ | ユーザーコンフィグ画面 |
| [UTILITY] | [3] | ユーティリティ | ユーザーカスタマイズ画面 |
| [MIDI] | [1] | MIDI | MIDI 設定画面 |
| [MIDI] | [2] | MIDI | MIDI プログラム |
| [MIDI] | [3] | MIDI | MIDI コントロー |
| [MIDI] | [4] | MIDI | MIDI バルクアウ |
| [MIDI] | [5] | MIDI | MIDI リモート設 |
| [D-I/O] | [1] | デジタル I/O | デジタル入力設定画面 |
| [D-I/O] | [2] | デジタル I/O | スロット設定画面 |
| [D-I/O] | [3] | デジタル I/O | ディザイア設定画面 |
| [GROUP] | [1] | グループ | フェーダグループ設定 |
| [GROUP] | [2] | グループ | ミュートグループ設定 |
| [GROUP] | [3] | グループ | フェーダーリンク / ス |
| [MATER] | [1] | メータ | インプットチャンネル |
| [MATER] | [2] | メータ | バス / AUX メータ画 |
| [MATER] | [3] | メータ | スロットメータ画面 |
| [AUTOMATION] | [1] | オートメーション | オートメーション設定画面 |
| [AUTOMATION] | [2] | オートメーション | オートメーション実行画面 |
| [AUTOMATION] | [3] | オートメーション | イベント編集画面 |

6. 2桁番号入力によるシーンの呼出し

ユーザコンフィグ画面の [10 KEY SCENE READ] が ON のとき、以前のバージョンでは、テンキー部の数字キーをひとつ押すとシーン番号 1 から 10 のうちの数字に対応したシーンが呼び出されます (シーン 10 番は [0] キー)。V1.10 ではテンキー部の数字キーを 2 つ (または同じキーを 2 度) 押すことにより、シーン番号 1 から 50 の全てのシーンを呼び出すことができます。1桁の番号のシーンを呼び出すためには、1桁目に [0] キーを押してください。

7. カーソルリピート機能

カーソルキーを押している間、画面上のカーソルが矢印の方向に動き続けます。

8. インプットチャンネル 9 から 16 の入力切替えのショートカット

MMC/CURSOR キーを押しながら D-I/O キーを押すことにより、インプットチャンネル 9 から 16 の入力をアナログとデジタル (SLOT3 からの入力) に切り替えることができます。

9. モニタ A のディマー ON/OFF のショートカット
MMC/CURSOR キーを押しながら SOLO MONITOR キーを押すことにより、モニタ A のディマーの ON/OFF を切り替えることができます。
10. MMC モードと CURSOR モード中のジョグダイヤルによるパラメータ変更
MMC モードまたは CURSOR モード中、ジョグダイヤルはカーソルを移動させるために使いますが、カーソルが画面上のノブやボックス上にあるときに ENTER キーを押すことにより、そのパラメータをジョグダイヤルで変更できるようになります。
(ENTER キーが違う用途に使われるボックスは除きます。) もう一度 ENTER キーを押すと元の MMC モードまたは CURSOR モードに戻ります。
11. DIRECT キーによるチャンネル設定画面の表示
デジタル I/O 画面データのスロット設定画面が表示されているときは、DIRECT キーを押すとチャンネル設定画面が表示が切り替ります。
12. DIRECT キーによる SLOT 割当て解除機能の削除
以前のバージョンでは、DIRECT キーを点灯しているときに押すと、そのチャンネルの SLOT への出力割当てが解除され(初期状態に戻り)ましたが、V1.10 では、不用意な割当て解除の防止のためこの機能を削除しました。DIRECT キーの機能は、他の画面からのスロット設定画面の呼出しと、スロット設定画面からのチャンネル設定画面の呼出しとなります。
13. オートメーション ENABLE 時の実行画面の表示
AUTOMATION/AUX キーによりオートメーションを DISABLE から ENABLE に切り替えたとき、オートメーション実行画面が呼び出されます。
14. NEW MIX の実行による FADER MODE のリセット
オートメーション設定画面の NEW MIX を実行すると、オートメーション実行画面の FADER MODE が RELATIVE になっていても自動的に ABSOLUTE に切り替ります。
15. オートメーション実行画面のカーソルの初期位置の改善
オートメーション実行画面を呼び出したときのカーソル位置を、タイムベース選択部としました。
16. オートメーション用のメモリがなくなった場合の確認ダイアログ表示
オートメーション記録中に残りメモリがなくなり記録を中断する場合、"NO MEMORY FOR AUTOMATION RECORDING" という確認メッセージが表示されます。
17. START SCENE 実行時のタイムコードの反転表示
オートメーション実行画面の START SCENE ボタンを押してスタートシーンの書込みを実行すると、一瞬だけタイムコード表示が反転表示となります。

18. ロケート先タイムコードの表示

MMC 制御機能のロケートを実行すると、タイムコード表示部にジャンプ先であるロケートポイントのタイムコードが反転表示されます。

19. LOOP ボタンによるループ動作の実行

ループ動作が無効の状態では LOOP ボタンを押すと、ループ動作が有効になるだけではなく、ロケートポイント 1 から PLAY 状態になります。

20. ポップアップウィンドウ表示中の MMC モードの切替え

名前編集画面や確認メッセージ表示等のポップアップウィンドウが表示されている状態でも、MMC モードの ON/OFF を切り替えることができます。

21. サラウンドの AUTO MOVE の同時実行チャンネル数制限のメッセージ表示

サラウンドの AUTO MOVE (自動実行) は 9 以上のチャンネルで並行して実行することはできません。サラウンドの AUTO MOVE が既に 8 チャンネルで START されている状態で、更に別のチャンネルで START しようとするとき "ALREADY MOVING 8 CHANNELS" というメッセージが表示されます。

22. EQ バンド選択キーによるバンド毎のフラット機能

EQ バンド選択キーを 2 秒間押し続けることにより、そのバンド (H, HM, LM または L) のゲイン (G) をフラット (0dB) にすることができます。

23. EQ 周波数テーブルの変更

| 以前のバージョン | Version | 1.10 |
|----------|---------|--------|
| 22Hz | -> | 22.4Hz |
| 32Hz | -> | 31.5Hz |
| 110Hz | -> | 112Hz |
| 130Hz | -> | 125Hz |

24. EQ の特性グラフ表示部の変更

0dB を横線、100Hz、1KHz、10KHz を示す縦線が点線で表示され、操作に応じて移動する選択されているバンドの周波数を示す縦線が実線で表示されます。(以前のバージョンとは逆になります。)

25. A/B ボタンのトグル表示

イコライザ設定画面およびダイナミクス設定画面の A/B ボタンが、1 回押す毎に反転表示と通常表示に切り替ります。(以前のバージョンでは、押した瞬間だけ反転表示となります。)

26. ソロのポジションとモードの初期設定値の変更
ソロポジションの初期設定は PFL，ソロモードの初期設定は MIX となります。（以前のバージョンでは IN PLACE と SOLO です。）

27. ユーザカスタマイズレイヤのフェーダへの NONE の割当て
ユーザカスタマイズレイヤのフェーダへのチャンネルの割当てで NONE（チャンネルを割り当てない）を選択することができます。また，初期設定では全てのフェーダに NONE が割り当てられています。

28. 全ての画面での選択チャンネルの表示
全ての画面で，画面の左上の選択チャンネル表示部に選択チャンネルの番号が表示されます。（以前のバージョンでは選択チャンネルが表示されない画面もありました。）

29. フェーダリンクまたはステレオ設定されているチャンネルの点滅による選択表示
フェーダリンクまたはステレオが組まれている 2 つのチャンネルのうち，選択されている側のチャンネルの SELECT キー（LED）が点滅します。

30. ダイナミクス機能の切替え時のパラメータの保持
ダイナミクス機能（GATE+COMP と EXPANDER）を他方に切り替え，再度もとの機能に戻した場合，スレッシュホールドやレシオなどのパラメータがリセットされずに保持されています。ただし，他方の機能に切り替えている間に，チャンネル選択や表示画面を切り替えた場合は，もとの機能に戻したときパラメータは初期設定値になります。

WR-DA7 バージョン 1.20 の変更項目

1. サラウンド動作時の操作パフォーマンス改善
V1.10 において、サラウンドの AUTO MOVE 機能や、オートメーション機能を用い、複数のチャンネルで同時にサラウンド動作を行なうと、操作に対する反応が遅くなるという問題に対し、反応速度の改善を行ないました。
2. スロット 2 または 3 への AES/EBU カード装着時の問題の改善
スロット 2 または 3 に AES/EBU カードが装着されている場合、AES/EBU カードからの入力信号をクロックマスターとして同期できない（画面では選択できたように見えるが、実際には同期していない）という問題を改修しました。
3. 画面のメータの表示がメータブリッジのメータと一致しない問題の改善
LCD のメータ画面内のメータは、ポイント数が 15 であり、メータブリッジのメータと同じであるが、ポイント毎の表示のしきい値がメータブリッジと異なり、表示が一致しない場合があるという問題を改修しました。
4. オシレータの出力が設定値よりも 0.8dB 低い問題の改善
内蔵オシレータの出力レベルが、LCD のオシレータ画面で設定する出力レベルよりも 0.8dB 低いという問題を改修しました。
5. MMC コマンド送信時の STOP と PAUSE の表示が逆になっている問題の改善
MMC モードで MMC コマンドを送信するとき LCD 画面右下に表示されるコマンド名称が、STOP と PAUSE で逆に表示される問題を改修しました。
6. BUS をステレオにしたときにアサインが隣のチャンネルにコピーされる問題の改善
モノラルチャンネルからモノラルの BUS へアサインしている状態で、BUS をステレオにすると、アサインしているチャンネルの（ステレオにしたときにペアになる方の）隣のチャンネルのアサインが ON になるという問題を改修しました。

WR-DA7 バージョン 1.21 の変更項目

1. デジタル音声出力信号のサブコードの切替え

本体の DIGITAL REC OUT と AUX1/2 およびスロットに装着した AES/EBU カードから出力されるデジタル音声信号のサブコードを、業務用の AES/EBU と民生用の S/PDIF に切り替えることができるよう改修しました。[D-I/O]画面グループの[INPUT SET]画面に追加されたボタンを操作して切替を行なってください。[INPUT SET]画面の[DIGITAL OUTPUT SELECT]部の各ボタンは、通常状態で AES/EBU、押された状態で S/PDIF となります。ただし、これらのサブコード切替えボタンは、電気的な特性を切り替えるための本体背面および AES/EBU カード上の AES/EBU / S/PDIF 切替えスイッチとは連動せず独立に動作します。

2. MIDI リモートで全てのコントロールチェンジ番号が設定可能

MIDI リモートのメッセージとして、コントロールチェンジを使用する場合、一部のコントロールチェンジ番号については、設定できないよう制限を設けていましたが、全ての番号が設定できるよう改修しました。

WR-DA7 バージョン 2.00 の変更項目

1. GR メータの目盛りを細かくしました。
[CHANNEL] 画面および [DYNAMICS] 画面に表示される [GR] メータの目盛り表記を、従来の 10dB 間隔から 2dB 間隔へと細かくしました。
2. ステレオ解除時にそれぞれのチャンネルの PAN が左右に定位します。
従来は、ステレオ設定を解除した場合に、解除されたそれぞれのチャンネルの PAN を、センター位置にセットしていましたが、奇数チャンネルの PAN は最も左、偶数チャンネルの PAN は最も右に定位するよう改善しました。
3. マルチ・チャンネル表示中のチャンネル間コピー方法を追加しました。
[CHANNEL], [EQ], [DYNAMICS], [SURROUND] のマルチ・チャンネル表示中を行なっているとき、チャンネル間の設定コピーの操作を容易にしました。コピー元チャンネルの [SELECT] キーを押しながら、コピー先チャンネルの [SELECT] キーを押すと、コピーが実行されます。但し、マルチ・チャンネル表示中は [SELECT] キーによるチャンネルのステレオ、リンクの ON/OFF のショートカットは出来なくなっています。
4. EQ のフィルタ・タイプ変更時に、EQ の各パラメータが初期値にリセットされなくなりました。従来は、EQ のフィルタ・タイプを切換えると、当該チャンネルの Q が 1.0 に、G が 0.0dB にリセットされていましたが、フィルタタイプを切換えても、現在の値が保持されるように改善しました。
5. [SURROUND] 画面表示中に [PAN] エンコーダを押すと [CHANNEL] 画面が表示されます。[SURROUND] 画面表示中に卓面の [PAN] エンコーダを押すと、[CHANNEL] 画面が表示されます。PAN の操作中に誤って [PAN] エンコーダを押してしまい、[SURROUND] 画面が表示されてしまったときに、簡単に [CHANNEL] 画面に戻ることができます。
6. サラウンドモニタのソロを有効にしました。
[SOLO/] 画面の [SOLO POSITION] が [IN PLACE] になっているとき、サラウンドが有効になっているチャンネルをソロにすると、サラウンドモニタが ON の状態でのソロのモニタリングを可能にしました。モニタリングの出力レベルは、[SURROUND MONITOR] の [MASTER LEVEL] で調整します。但し、MTR 等への記録中には行なわないで下さい。

7. サラウンド・モニタ中のテープ・リターンのモニタリングを可能にしました。

従来は、サウンド・モニタではテープへの送りの音だけがモニタリング出来ましたが、[MMC]キーを押しながら、テンキーの[1]/[2]/[3]を押すことにより、スロット1/2/3へのテープ送りとテープ・リターンのモニタリングを切換えられるようにしました。但し、MTR等への記録中には行なわないで下さい。

8. 3 + 1 サラウンドに対応しました。

L/C/R/Sの3 + 1 サラウンド・モードを追加しました。[UTILITY]画面グループの[CONFIG]画面で[3+1 SURROUND MODE]を[ON]にすることにより、3 + 1 サラウンド・モードになります。このボタンは、[SOLO/MON]画面の[SURROUND MONITOR]が[OFF]で、全てのサラウンドチャンネルのソロが[OFF]のときのみ操作可能です。3 + 1 サラウンド・モード時は、BUS1にLeftチャンネル、BUS2にRightチャンネル、BUS3にCenterチャンネル、BUS4にSurroundチャンネルが各々送られています。BUS5~8は通常のBUSとしてご使用になれます。尚、工場出荷設定状態は、OFFですが、バージョンアップにより導入頂いたお客様は、値が不定となっておりますので、必ず設定を確認してからお使いください。

9. サラウンドのLR/FRポジションを卓上ノブで調整可能になりました。

サラウンドの[JOG&FADER][PATTERN]モード時に、LRポジション、FRポジションの調整を、従来のJOGダイヤルとMASTER LRフェーダに加えて、[PAN]調整ノブとダイナミクスセクション上段のノブでも可能にし、操作性を改善しました。LRポジションは、従来のJOGダイヤルに加えて、[PAN]調整ノブでも調整出来ます。FRポジションは、従来のMASTER LRフェーダに加えて、ダイナミクスセクション上段のノブでも調整出来ます。

10. サラウンドの全てのモードでサブウーハレベル調整可能にしました。

従来、5 + 1 サラウンドのサブウーハレベル(BUS4)調整は、[SEND VOL]モード時のみ可能でしたが、[JOG&FADER]、[PATTERN]モードでもEQセクション最下段のノブで調整可能にしました。

11. MIDI リモートで全てのコントロールチェンジ番号が設定可能

MIDI リモートのメッセージとして、コントロールチェンジを使用する場合、一部のコントロールチェンジ番号については、設定できないよう制限を設けていましたが、全ての番号が設定できるよう改修しました。

12. MIDI リモートによるデジタルオーディオワークステーションとの双方向制御を可能にしました。[UTILITY]画面グループの[USER CSTM]画面に、Digi DesignのProTools等のデジタルオーディオワークステーションとの双方向制御を可能とするボタンを追加しました。[DAW]ボタンを押下して、各チャンネルに[DAW MODE]表示されたら、[EXECUTE]を押してください。DAWモードが設定されているときは、[MIDI]画面グループの[MIDI

RMT]画面の Library 表示部に"DAW MODE"と表示され、MIDI リモートライブラリの呼出しは出来ません。また、MIDI のセットアップ画面にて、Remote1 (または Remote2) のポートを DAW と接続しているものに設定し、MIDI チャンネルは 1 を設定してください。

ProTools をお使いの場合は、以下のように設定してください。

ProTools 側は、サーフィス・ユニットとして、OMS に Mackie 社の HUI を認識させてください。DA7 からの操作は、FADER, MUTE, SOLO, PAN が ProTools と連動します。尚、工場出荷設定状態は、全て NONE ですが、バージョンアップにより導入頂いたお客様は、値が不定となっていますので、必ず設定を確認してからお使いください。

13. デジタル音声出力信号のサブコードの切替え

本体の DIGITAL REC OUT と AUX1/2 およびスロットに装着した AES/EBU カードから出力されるデジタル音声信号のサブコードを、業務用の AES/EBU と民生用の S/PDIF に切り替えることができるよう改修しました。[D-I/O] 画面グループの [INPUT SET] 画面に追加されたボタンを操作して切替を行なってください。[INPUT SET] 画面の [DIGITAL OUTPUT SELECT] 部の各ボタンは、通常状態で AES/EBU、押された状態で S/PDIF となります。但し、これらのサブコード切替えボタンは、電気的な特性を切り替えるための本体背面および AES/EBU カード上の AES/EBU / S/PDIF 切替えスイッチとは連動せず独立に動作します。尚、工場出荷設定状態は、全て AES/EBU が選択されますが、バージョンアップにより導入頂いたお客様は、値が不定となっていますので、必ず設定を確認してからお使いください。

14. タンデム動作時のフェーダレイヤ連動の ON/OFF を切り替えることができます。

従来は、DA7 をタンデム接続で使用する場合、フェーダレイヤの切替え動作がマスターとスレーブの間で必ず連動していました。このフェーダレイヤ切替えの連動を [D-I/O] 画面グループの [TO SLOT] 画面の [LAYER LINK] ボタンで ON/OFF できるよう改善しました。[LAYER LINK] ボタンを OFF にすると、マスターとスレーブ間でフェーダレイヤの切替えが連動しなくなります。尚、工場出荷設定状態は、ON ですが、バージョンアップにより導入頂いたお客様は、値が不定となっていますので、必ず設定を確認してからお使いください。

15. 入力チャンネルのデジタル・パッチ機能に対応しました。

物理的な入力チャンネルに対して、入力 8 チャンネル単位でフェーダのアサインを変更することが出来るデジタル・パッチ機能に対応しました。[UTILITY]画面グループの [INPUT MTX]画面で、INPUT1-8, 9-16, 17-24, 25-32 の 8 チャンネル単位で、物理的な入力に対して、任意のフェーダにアサインすることができます。任意のフェーダに対して、左側の物理チャンネルを JOG ダイアルで選択し、[ENTER]キーを押すことで確定されます。設定の変更により、PEAK/SIGNAL を含めた卓面上の表示、及び画面の選択が変更されます。[DEFAULT]キーを押すと、工場出荷設定状態に戻ります。尚、工場出荷設定状態は、INPUT1 が 1, INPUT2 が 2, INPUT32 が 32 というように各 INPUT と FDR が対応していますが、バージョンアップにより導入頂

いたお客様は、値が不定となっていますので、必ず設定を確認してからお使いください。

16. BUS チャンネルでもフェーダ・グループ設定を可能にしました。

BUS チャンネルの中でもフェーダ・グループを設定可能にしました。入力チャンネルとは独立して、フェーダ・グループの 5, 6 として設定出来ます。[GROUP]画面グループの[FADER GRP]画面で、カーソルキーの上下ボタンでグループ 5 または 6 を選び、カーソルモードもしくは MMC モードの状態 JOG ダイアルを用いてチャンネルを選択し[ENTER]キーで決定、もしくは卓面の[SELECT]キーで決定し、グループに含むチャンネルを選択してください。尚、工場出荷設定状態は、GRP5, 6 は選択状態、全 BUS チャンネルは非選択状態ですが、バージョンアップにより導入頂いたお客様は、値が不定となっていますので、必ず設定を確認してからお使いください。

17. BUS, MASTER LR へのアサインを一括で確認出来る様になりました。

[GROUP]画面に[ROUTING]画面を設けて、全入力チャンネルの BUS, MASTER LR へのアサイン状態、及びサラウンドの ENABLE/DISABLE 状態を一画面で確認出来る様に改善しました。本画面では、INPUT もしくは AUX RETURN がステレオ設定の場合は、チャンネルを仕切る線が消えます。BUS がステレオ設定の場合は、BUS 表示部が白黒反転になります。また、本画面表示中に、画面上で選択されているチャンネルに対して、テンキーでアサインの ON/OFF が出来ます。[1]~[8]で BUS1~8 のアサインの ON/OFF, [9]で MASTER LR のアサインの ON/OFF, [0]でサラウンドの ENABLE/DISABLE が変更可能です。(卓面上のチャンネル選択状態とは関係ありません。)更に、本画面表示中は、卓面のアサイン表示 LED でも同様にアサイン状態を確認出来ます。FADER/AUX1~PAN/SURR/AUX4 部までは、奇数 BUS アサイン時に 緑点灯、偶数 BUS アサイン時に赤点灯、奇数、偶数 BUS アサイン時に橙点灯となります。LIBRARY/AUX5 部は、MASTER LR アサイン時に橙点灯、SEL/MAN/AUX6 部は、サラウンド ENABLE 時に橙点灯となります。

18. オートメーション・キーを押したときに、元の状態に戻せるようになりました。

コンソールの[AUTOMATION]キーを押すと、記録されているスタート・シーンが呼出されますが、操作を誤ってキーを押してしまった場合に、UNDO することで元の状態に戻せるように改善しました。

19. マニュアル・ロケートに対応しました。

MMC 対応の 等を接続して、指定のタイムコードへジャンプするとき、従来は LOCATE ポイントの 1~6 までに設定しておく必要がありましたが、マニュアルで任意のタイムコードにロケート出来る様になりました。[AUTOMATION]画面グループの[EXECUTE]画面において、[TIME CODE]にカーソルを合わせ、[ENTER]キーを押すと、10 キーで直接タイムコードを入力することが出来ます。10 キーを押すごとに右の桁に移動していきます。また、各桁の移動は右、左のカーソルキーで行なうことが出来ます。ジャンプしたいタイムコードを入力し、[ENTER]キーを押すと、指定し

た任意のタイムコードに MTR がジャンプします。

20. クロスフェード時間をフェードイン/アウトそれぞれ別々に設定できます。

シーン呼出し時のクロスフェード時間を、フェードインの場合とフェードアウトの場合とで別々に設定できます。[SCENE MEMORY] 画面グループの [XFADE] 画面にそれぞれの設定用ノブを設けました。尚、工場出荷設定状態は、FADE IN/OUT とともに 0.0sec ですが、バージョンアップにより 導入頂いたお客様は、値が不定となっていますので、必ず設定を確認してからお使いください。

21. RS422 9PIN PROTOCOL による VTR 制御機能に対応しました。

[UTILITY] 画面グループの [CONFIG] 画面に [RS422 9PIN PROTOCOL] の ON/OFF を切り替えるためのボタンを設けました。この [RS422 9PIN PROTOCOL] ボタンが ON 状態のときは、MMC 機能の操作に対して、MMC メッセージではなく、RS422 9PIN PROTOCOL のメッセージが、背面の RS422/485 ポートから送信されます。RS422/485 ポートと VTR 等の 9PIN ポートを接続することにより、DA7 からの制御が可能となります。サポートされる操作は以下の通りです。

PLAY, FF, REW, STOP, LOCATE

[REPLAY] と [LOOP] については、[RS422 9PIN PROTOCOL] が ON のときには操作禁止となります。また [RS422 9PIN PROTOCOL] が ON のとき、通信速度は 38.4Kbps 固定となります。尚、工場出荷設定状態は、OFF ですが、バージョンアップにより 導入頂いたお客様は、値が不定となっていますので、必ず設定を確認してからお使いください。

22. オシレータの ON/OFF を行なうためのショートカット操作を設けました。

卓面の [MMC] キーを押しながら [UTILITY] キーを押すと、オシレータ出力の ON/OFF を切り替えることができます。

23. ソロのミュート ON/OFF のショートカットを設けました。

従来は、ソロの有効、無効を制御するソロ・ミュート ON/OFF は、[SOLO/MON] 画面の中でしか制御出来ませんでした。卓面の [MMC] キーを押しながら [UNDO/REDO] キーを押すことで、簡単に制御出来る様になりました。これによって、ソロ・セーフのように、予め設定してあったいくつかのソロチャンネルを一括で ON/OFF するための操作が容易になりました。

24. ユーザ・カスタム・レイヤの設定内容を、シーン 0 ~ 10 に記憶可能にしました。

従来は、ユーザ・カスタム・レイヤにフェーダを割り当てても、それを記憶する手段がありませんでしたが、シーンの 0 ~ 10 に記憶できるように改善しました。シーンの 0 ~ 10 を呼出したときは、ユーザカスタムレイヤが記憶されている状態に変更されます。

25. PEAK/SIGNAL の LED 点灯のしきい値を変更可能にしました。

[UTILITY]画面グループの[OSC/BATT]画面に[PEAK LED THL]の値を-10dB~0dB 間で1.0dB 刻みに設定出来るようにしました。画面上のノブにカーソルを合わせて、JOGダイヤルで値を変更します。尚、工場出荷設定状態は、-6.0dB ですが、バージョンアップにより導入頂いたお客様は、値が不定となっていますので、必ず設定を確認してからお使いください。

26. ダイナミクスコンプレッサ/リミッタの ATTACK TIME の工場出荷設定状態を変更しました。ダイナミクス設定画面、コンプレッサ/リミッタの ATTACK 時間の工場出荷設定状態を従来の 10ms から 35ms に変更しました。バージョンアップにより導入頂いたお客様は、メモリクリアした後で値が反映されます。

Copyright (C) 1998-2000 Matsushita Communication Industrial Ltd.